科目名	情報倫理　　Information ethics						
科目担当者	原田 佳典　　HARADA Yoshinori						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(3)，(4)
授業の概要	本授業では、インターネットの普及により情報技術が日々進化・発展し、誰もが情報発信者となりうる現代において、安全かつ安心してネット上の情報を有効に利活用するための基本的な理解を得る事、情報リテラシーを向上させる事で DX をはじめとした新しい情報化社会へ対応できる人材の育成を目的とします。 具体的には、ネット上のマナー・モラル、情報セキュリティの知識、個人情報保護・プライバシー保護に関する知識、知的所有権に関する知識、ビッグデータ・AI 利用に関する注意点、情報社会の将来と身につけるべきﾘﾃﾗｼｰの概要を理解するための授業と位置付けます。						
授業の到達目標	①　情報化社会における基本的な情報リテラシー・IT リテラシーとは何かを理解する。 ②　情報セキュリティリスクを理解し、被害者とならないと同時に無意識な加害者とならないための知識を身につける。 ③　個人情報保護・プライバシー保護に関する基本的な知識を理解する。 ④　著作権など知的財産に関する基本的知識を身につけ、正しく利用できるようになる。 ⑤　ビッグデータ・AI 活用に関する基本的な知識を身につけ、正しく利用できるようになる。						

授業計画・内容		
	1	情報倫理の概要と重要性の理解
	2	情報社会の進化・変遷と新しい社会の理解
	3	インターネットによるコミュニケーションの変化、社会への影響とリスクの理解
	4	メディア・メディアリテラシーの重要性と身につけ方の理解と小テスト
	5	情報セキュリティ脅威の概要と基本的な対策についての理解
	6	情報セキュリティ外的・内的脅威の例とインターネット利用時の注意点の理解
	7	インターネットを利用したサイバー犯罪と対策についての理解
	8	個人情報・個人情報保護法、個人情報の取り扱いについての理解
	9	サイバー犯罪の現状と対策について（宮崎県警察本部サイバー戦略局サイバー企画課　より）
	10	知的財産権の概要と権利侵害についての理解と小テスト
	11	企業における情報倫理と利用者としての情報倫理の重要性の理解
	12	ビッグデータと AI の概要と求められる倫理の理解
	13	デジタルデバイドの状況とユニバーサルデザインの意義の理解
	14	ソーシャルネットワークサービスにかかわるトラブルと対応についての理解
	15	情報通信社会とリテラシーに関するまとめ

授業外学修 (事前学修)	・次回授業の章を読んで概要を確認する。また授業ごとに個別に指示がある場合は従う。 （2 時間　×　13 回　※第 1 回、第 9 回を除く）
授業外学修 (事後学修)	・当日の授業の内容を整理しまとめる。また授業ごとに個別に指示がある場合は従う。 （1.5 時間　×　14 回　※第 9 回を除く） ・小テストの結果を確認し、誤答の再確認と関連項目の復習をする。（2 時間　×　2 回） ・レポートを作成する。（10 時間）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験	50%	①,②,③,④,⑤
	小テスト結果（2 回）	10%×2	①,②,③,④,⑤
	レポート提出（1 回）	20%	①,②,③,④,⑤
	授業への積極的参加（意見発表など）	10%	①,②,③,④,⑤

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	【改訂 3 版】情報倫理　ネット時代のソーシャル・リテラシー 著者：高橋慈子・原田隆史・佐藤翔・岡部晋典・ 出版社：株式会社技術評論社
参考文献	
その他	第 1 回講義で評価方法や授業のすすめ方について説明をしますので必ず出席してください。 ※この科目は、現役の IT 系企業勤務の教員が実務経験を踏まえて情報リテラシー、個人情報、知的財産等について授業を行います。